

40歳で構想を立て、50歳で行動開始、60歳で目標の陶芸教室を開く

元海南市職員

芝村幸志さん（64歳）

2011年3月定年退職

【しばむら こうじ】1951年、和歌山県海南市生まれ。1969年、海南市役所入庁。市民病院医事課を皮切りに商工課、市民環境課、介護保険課、子育て推進課等。2011年3月に定年退職し、同年4月、陶芸教室「きみの幸工房陶芸倶楽部」の代表となる。NPO法人和歌山地域医療情報ネットワーク協議会・事務局長として現在も勤務。陶芸のほかギター、ドラムの演奏、テニス、スキー、バイクも趣味。年4回程度の海外旅行も楽しんでいる。



——芝村さんは定年退職後に陶芸教室を開かれていますか、そもそも陶芸を始めたきっかけは何だったのですか。

市民病院医事課に勤務していた30歳の頃、当時の事務長が趣味で陶芸をされていて、試しにやってみないかと工房に誘われたのが陶芸との出会いでした。

当時の私は、役所のテニスサークルや軽音楽部に入って皆と一緒に楽しむことが多かったのですが、陶芸は一人で没頭できることと、出来上がった作品を永遠に手元に残せるというところに興味を覚えました。

陶芸を始めるきっかけをつくってくれた事務長は、定年を迎えられて間もなくお亡くなりになりました。その後しばらくプランクがあったのですが、異動先で陶芸をしている先輩と知り合い、その方の工房にお邪魔して陶芸を続けるようになりました。

——教室を開こうと思われるまでの経緯を教えてください。

40歳の時に参加したライフプランセミナーで、定年退職後の生き方についての講座を聞き「そろそろ何か考えないといけない」と強く意識するようになりました。その時、一つだけ心に誓ったのが「50歳になったら、定年後に役に立つ勉強を何か始めよう」ということでした。

50歳を目前に控え、私は「通信制の大学で本格的に陶芸を勉強して、定年後は趣味だけでなく、仲間を集めて陶芸をしよう！」と決意しました。

そんな矢先、偶然目にした新聞記事で大阪芸術大学に通信教育部が創設され、美術学科では陶芸も学べることを知りました。50歳の誕生日となる2001年3月4日に願書を提出し、同年4月、通信教育部の第1期生として入学しました。

——大学ではどんなことを学ばれたのですか。

芸術論から作陶や焼成技法、釉薬の知識まで幅広く学びました。デッサンの心得がなかったため、地元の画家の先生にも習いに行きました。

入学当初30人いた同級生は、卒業時には半分以上に減っていました。幅広い年齢層で、同じ公務員も何人かいました。スクーリングでは、朝から夕方までろくろを回していました。そこで、仲間ができたことも大学での大きな収穫でした。

卒業には124単位が必要で、基本的には論文を送ってCランク以上の成績であれば単位を取得できます。スクーリングが仕事と重なることもあり、時間のやりくりは大変でしたが、5年かけて無事に卒業することができました。



紀美野町にある工房。建物の外壁は周囲の木々の色に合わせて緑に

今年4月、紀美野町文化協会作品展で
発表した生徒さんたちの作品



——教室の開設に向けて、どのような準備をされたのですか。

大学に入って間もなく、作品提出のため自宅で作陶が必要だったこともあり、海南市に隣接する紀美野町に土地を購入し小さな工房を立ち上げました。スペースは約8畳で天井はガス窯を使えるよう高くしました。費用は土地・建物を含めて200万円くらいです。

教室を始めるにあたっては、スペースが足りなかつたので増築しました。その費用のほか、電動ろくろやガス窯など備品類の購入もあり500万円程度かかりました。

教室名は、紀美野町という町の名前と、貴方の幸せをつくるという意味を込めて「きみの幸工房陶芸倶楽部」にしました。

——生徒さんはどうやって集められたのですか。



芝村さん制作の抹茶茶碗

地元紙に掲載していただいたほか、職場の元同僚たちからの口コミもありました。今では、公民館講座や小学校の体験学習、歴史民俗資料館の土鈴づくりなどに声をかけていただくこともあります。

——教室は週何回開かれているのですか。

私は現役時代の経験をかわれ、定年後はNPO法人和歌山地域医療情報ネットワーク協議会に勤めています。そのため、教室は土曜日午後と日曜日限定で開いています。しかし、現役時代の要望を受けて昨年からは火曜日の夜も開くようになりました。最近は平日の昼間に開催することもあります。忙しくなつて少し利益が出てきたので、教室の管理費用は生徒さんからの会費等でまかなえています。

——やりがいを感じるのとはどんな時ですか。

教室を始めて感じたのは、何か趣味を持ちたいと考えている人がたくさんいるということでした。

教室の生徒数は現在約30名で、同じ趣味



火曜日夜の教室のメンバーたち。写真中央の外国人は隣町に来ているALT(外国語指導助手)の先生



工房開設以来、来てくれている公務員OBの生徒さん



グループ体験教室に来てくれている皆さんたち

を持った人たちが集い、楽しいコミュニケーションの場となっています。新年会も毎年開きます。生徒さん同士、仕事の悩みや家庭でのことを話したり、モノづくりだけでなく、心を開ける場として役立っていると感じています。

——今後やりたいことは何ですか。

国内外で開かれる展示会にできるだけ足を運んで、新しい発想を身に付けていきたいと思っています。教室については、体力がある限り続けていきたいので、サポートしてくれる人材の育成も必要だと感じています。

——最後に、現役の地方公務員の方にメッセージをお願いします。

私はじっくり時間をかけて準備したことで、自分が思い描いた定年後を過ごせています。40歳で構想を立て、50歳で実行に向けて動いたことが、成功につながったのだと思います。

——お話、ありがとうございました。